

低コスト造林・育林対策

現状と課題

造林から育林までの経費が高く、林業経営を圧迫している状況である。
そのため、低コストでの造林・育林を推進していく必要がある。

- | | | |
|------------|---|------------|
| 1 造林コストの削減 | → | 疎植造林の推進 |
| 2 地拵コストの削減 | → | 一貫生産の推進 |
| 3 保育コストの削減 | → | 下刈・除伐経費の削減 |

対策

1 疎植造林対策

- ・再造林促進事業の実施
- ・疎植造林技術の普及
(現地の実証地設定)
(疎植地の事後調査)

2 一貫生産の普及

- ・コンテナ苗の普及

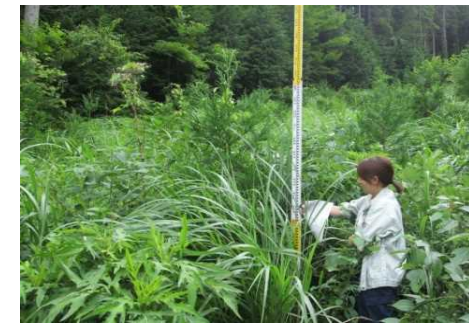
3 保育コスト対策

- ・初期成長の早い品種の植栽
(エリートツリーの実証)
- ・ツリーシェルターの活用

取組状況



実証地の設定



事後調査



コンテナ苗生産



エリートツリー実証林

低コスト造林・育林対策(実績)

1-1 再造林実施率

(単位:ha)

年次		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
皆伐面積	a	1,150	1,230	1,140	1,050	1,220	1,250	1,300
再造林面積	b	439	636	618	536	645	704	811
再造林実施率	b/a	38%	52%	54%	51%	53%	56%	62%

1-2 低コスト再造林実施率

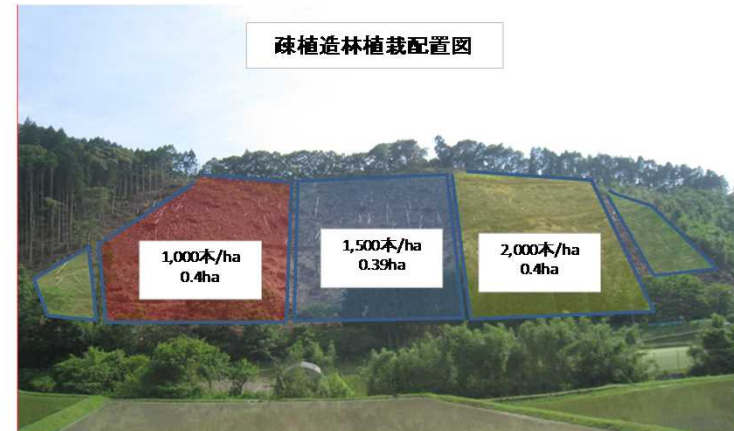
(単位:ha)

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
公共再造林面積	a	291	374	490	464	667	513	655
低コスト再造林	b	—	—	—	257	342	301	484
低コスト実施率	b/a	—	—	—	55%	51%	59%	74%

低コスト造林・育林対策（実績）

1-3 疎植現地の実証地設定

日時 平成26年11月11日
場所 佐伯市直川上直見
内容 1,000本、1,500本、2,000本の植栽地設定
ツリーシェルターの活用



佐伯市直川

1-4 疎植現地の事後調査

日時 平成26年6月と10月
場所 県下全域 30箇所
内容 1,000本、1,500本、2,000本の植栽地の
下刈前後の生育状況調査
定点観測を行う



玖珠郡九重町

低コスト造林・育林対策（実績）

2 エリートツリーの実証

- (1) 視察研修の実施
 - ・九州育種場・金峰山への視察（1月22日）
- (2) 見本林・試験林の造成
 - ・林業研究部・山香県有採穂園内



九州育種場内

3 コンテナ苗の普及

- (1) 南部振興局管内での取組
 - ・南部地域苗木生産者協議会の設立
 - ・平成27年度は60千本の生産
- (2) 大分西部地域コンテナ苗普及促進部会の取組
 - ・現地検討会の開催



南部振興局研修会